

## 40. 島根の保健活動の次世代への伝承をめざした取り組み

- 天野和子（島根県出雲保健所）      藤谷明子（島根県健康福祉部健康推進課）  
 永江尚美（島根県立大学看護学科）      沖原典子（島根県県央保健所）  
 倉橋真知子（元出雲市役所）      上田郁子（邑南町役場）  
 堀江亜由美（松江市役所）      今田久仁子（島根県浜田保健所）

### 【はじめに】

全国保健師長会島根県支部は、自治体や教育機関（大学等）に働く保健師職能で、保健師の業務統括や指導的立場（係長職以上）にある人等で構成し、保健師業務の向上と連携親睦を図り県民の健康づくり及び公衆衛生の向上に資することを目的に活動している。

近年の社会情勢の変遷、地区担当制から業務分担制へのシフト、県保健所及び市町村保健師共に世代交代など様々要因により、これまで培ってきた地域を基盤とした保健活動の継承に対しての危機感が高まってきたことから、島根県の保健師活動の伝承の必要性が生じている。

今回、先輩保健師が大切にしてきた地域保健活動を伝承するための冊子づくりを通して活動を繋いでいきたいと考えている。

### 【研究目的】

島根県では、地域活動を担って来た保健師がここ数年で大幅に退職し、20～30歳代の若手保健師が中心となる時代を迎える。この世代交代に伴い、島根の保健活動を引き継ぐことができると危惧されることから、以下を研究目的とした。

- ① 「島根に働く保健師のアイデンティティ」を後輩に語り継ぎ、人々の健康課題の解決に向けた専門能力を高める。
- ② 島根県の保健師が行ってきた「地域を基盤にした総合保健活動」「住民との協働による組織づくり」「他機関・他職種間との連携」「大切にしてきたこと」など特徴的な取り組みを後輩に語り継いでいく。

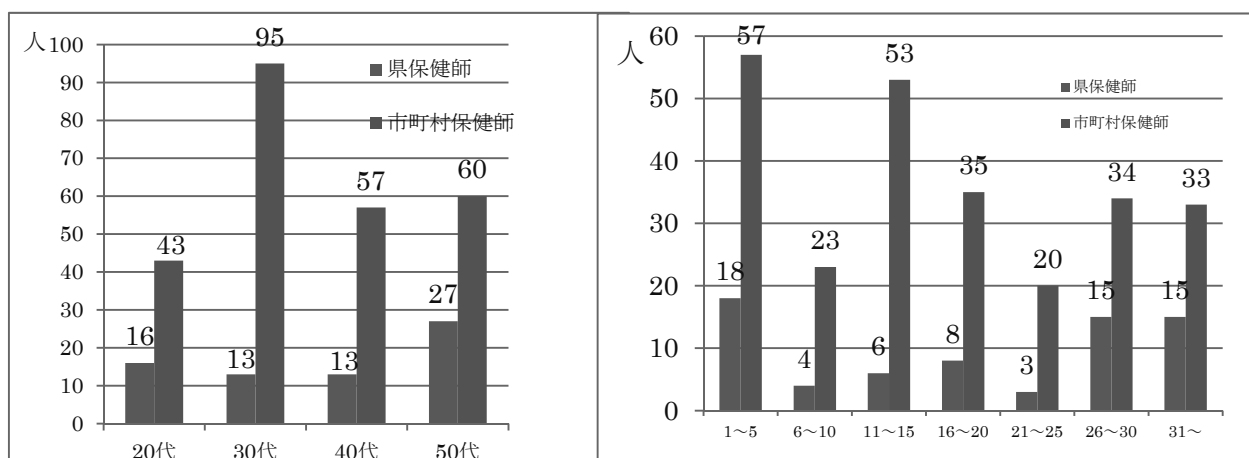


図1 年代別保健師数

図2 経験年数別保健師数

## 【方法】

1. 活動の伝承に関する取り組みを保健師長会の年間計画として実施する。
2. 先輩保健師へ「後輩に伝えたいこと・語り継ぎたいこと・島根の保健活動として守りたいこと」等をインタビュー又は文書で受け取り、編集し、島根に働く保健師全体で活用するための副読本を作成する。

## 【取り組み内容とその成果】

### 1. 保健師活動の質の向上をめざした研修会の開催

全国保健師長会島根県支部の活動として、保健師の人材育成を目的として下記の研修会を開催した。先輩保健師の活動に学ぶこと、人材育成の考え方の整理、地域包括ケアにおける保健師の役割など計画的に研修を行うことができた。

回	開催日	内 容
第1回	平成25年6月29日	テーマ：先輩保健師の活動に学ぶ 講演「保健師として心がけてきたこと」 講師 元益田市健康推進課長（保健師）
第2回	平成26年2月8日	テーマ：島根県中堅期・管理期保健師人材育成プログラム作成について 講演「地域を基盤とした保健活動 ～健康なまちづくりの推進～」 講師 島根県健康福祉部医療統括監
第3回	平成26年6月28日	テーマ：統括保健師の配置を推進する 講演「保健師リーダーに期待すること」 講師 島根県健康福祉部健康推進課長
第4回	平成27年1月24日	テーマ：地域包括ケアシステムを地域づくりとして活かすために 講演「地域包括ケアシステムにおける保健師の役割」 講師 島根県益田保健所長

### 2. ブロック学習会の開催（保健所管内ごとの7ブロック）

会員の交流と人材育成を兼ねて、平成25年度は5ブロックで、平成26年度は4ブロックで学習会を開催した。隠岐ブロックにおいては、先輩保健師の自宅へ会員が出向き、聞き取りにより伝承語りの原稿を作成し、ブロック内の学習にも活用している。

その他のブロックでは、先輩保健師を招いての学習会を開催し、取り組みの歴史を知り、現在の体制を整えるまでの苦労や、職場内の合意形成の歴史などを理解できた。

### 3. 伝承語り編集委員会の開催

平成26年度2回・・・保健活動の歴史を振り返り、特徴ある活動に関わった保健師の選出と各ブロックの連絡員を通じた執筆依頼を調整した。

平成 27 年度 2 回・・・個々の原稿の確認と全体調整を行い、以下の構成を最終案とした。

#### (最終案) 伝承語り構成

タイトル : ここにある 伝承の息吹き～島根の保健師活動～

##### 【構成】

1. これまでの取り組みを学ぶことから  
社会情勢と保健活動の歴史
2. いきいきと足跡が続く  
ー先輩保健師の語りー
  - ・精神保健活動に尽力された（座敷牢時代を経て）
  - ・重点地区活動の展開～保健所の立場
  - ・重点地区活動の展開～市町村の立場
  - ・まちづくりの活動の実践
  - ・一人保健師として
  - ・地域と一体となった健康づくり
  - ・保健師基礎教育の立場から
  - ・町独自の肝炎対策から施策化へ
  - ・離島における精神保健活動
3. 原点に学び、これから活かす保健活動

#### 4. 先輩保健師からの伝承キーワード

7 ブロックから、1～2 人の先輩保健師の伝承語り原稿提出をうけ、編集委員会において、先輩保健師が伝えたいことのキーワードを整理した。

- 木を見て森を見ることの重要性
- 本当の住民主体とは？
- 地域ぐるみの活動とは？
- 私は何ができるのか、何をすべきか？
- 地域住民を支え、地域が動いた実感が保健師の支え
- 保健師にしかできない活動、保健師だからできる活動
- 自分を信じてすすむこと
- 悩んだときに一緒に歩いてくれる仲間がいること
- 私たちの仕事は誰のための仕事なのか

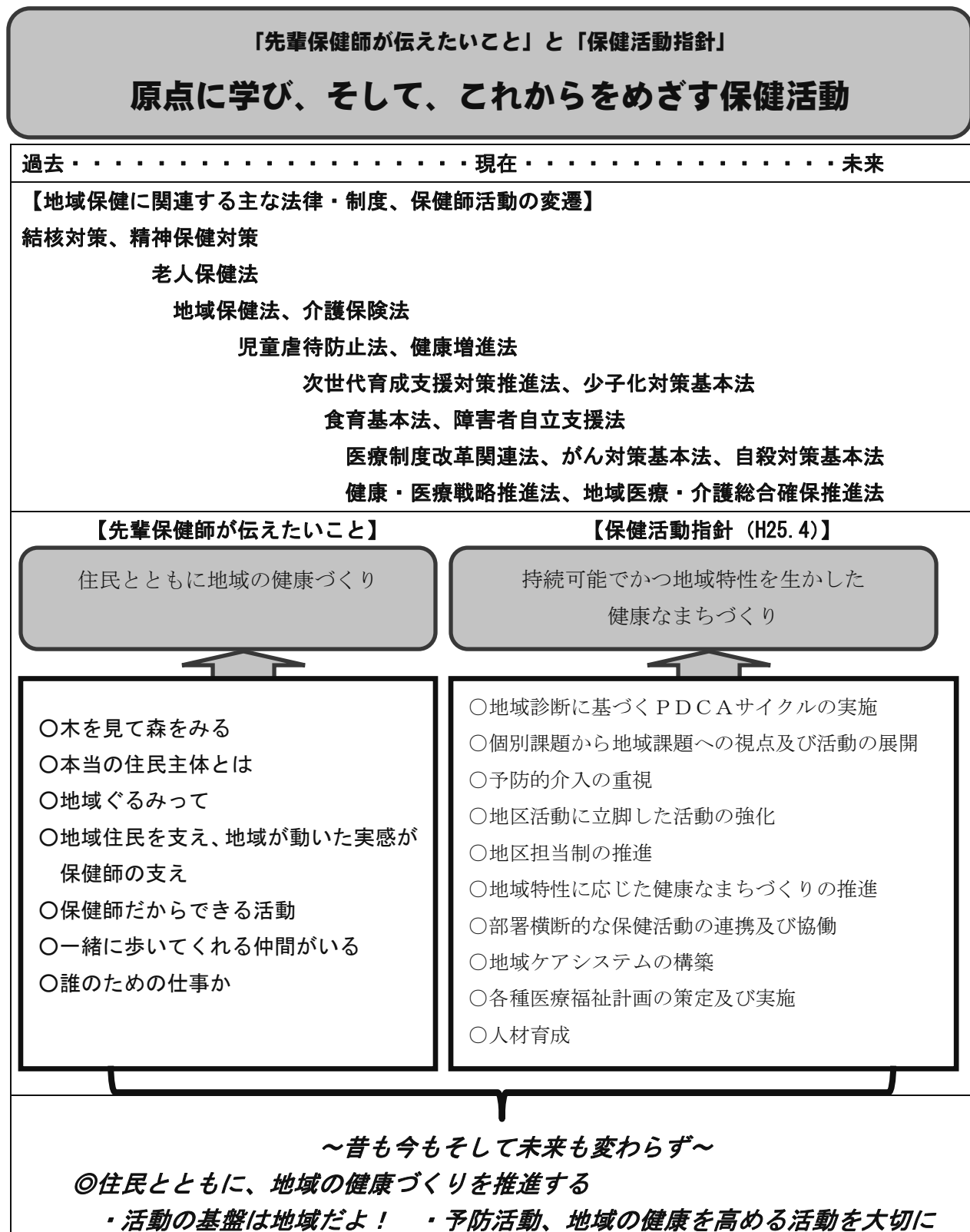
##### 【まとめ】

島根県では、昭和 30 年代後半から市町村との共同保健計画による脳卒中对策・成人病半減対策・がん対策など、県と市町村が重層的に保健活動に取り組み地域の保健活動を推進させる仲間としての関係を築いてきた歴史がある。

全国保健師長会島根県支部の活動として取り組んだ人材育成、伝承語りの作成プロセスにおいて、今まで忘れかけられていた保健師魂を呼び戻すこととなり、県内保健師の資質

向上と、保健師の人材育成に役立てることができると考えている。

先輩保健師から伝承された内容は、「過去の活動」ではなく、次の図でまとめたとおり、今まさに大切にしている保健師活動であると整理ができた。



**【日本国憲法（昭和 21 年憲法）第 25 条】：国民の生存権と国の社会的任務**

第 1 項 すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

第 2 項 国は、全ての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

**【日本国憲法（昭和 21 年憲法）第 12 条】：自由及び権利の保持についての国民の責任**

憲法が国民に保障する自由および権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。

### 終わりに

今回、先輩保健師の語りを「ここにある“伝承の息吹き”～島根の保健師活動～」としてまとめる過程で、先輩諸姉がその時々の健康課題に向き合い、それを解決するために、関係機関や地域の方々と協働しながら取り組んできた歩みを明らかにすることが出来た。

これらの活動は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」に記載のある【地域診断に基づく PDCA サイクルの実施】【予防的介入の重視】【地区活動に立脚した活動の強化】などと何ら変わるものではないことを再確認できた。

若い保健師の副読本として、今後あらゆる機会を通じて活用していくことにしている。

### 経費使途明細

項 目	金 額
ブロック活動費	90,000 (@10,000×9ブロック分)
研修講師謝金	20,000 (@5,000×4人分)
編集委員会旅費(4回分)	19,230
編集委員資料印刷等	3,120
通信費(郵券料)	3,390
冊子印刷費	248,400(230,000+税)
チラシ印刷費	22,680(21,000+税)
合計	406,820